

平成 29 年 8 月吉日

## 第 4 回「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」 候補者推薦のお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、2014 年に創設いたしました「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」も、お陰様で今年は第 4 回目を迎えます。この賞は、臨床研究、基礎研究、トランスレーショナルリサーチ等、幅広い医療分野での研究に従事する方々の中から、イノベーションの推進に著しく貢献された方を顕彰することを目的としています。

つきましては、基礎及び臨床研究分野に限らず、予防医学及び公衆衛生を含む様々な分野における革新的で大胆なアプローチ、又は既存概念を覆すような新しい取り組み等、より良い未来への扉を開く優れたイノベーターをご推薦賜りたく、下記の要領でご応募くださいますよう御願い申し上げます。なお、過去における応募履歴の有無は選考結果を左右するものではありません。

イノベーションは私たちの生きる力であり、未来への礎となるものです。かかるイノベーションを一層推進すべく、第 4 回「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」の候補者をご推薦いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

謹白

### 記

- 応募形式： 他者による推薦  
応募締切： 2017 年 9 月 15 日（金）必着  
応募方法： E-mail、FAX、または郵便にて  
選考方法： 本賞の事務局及び共催団体から独立した審査委員会による選考を実施  
選考結果発表： 10 月中旬に推薦者及び受賞者に通知  
第 4 回授賞式： 2017 年 12 月 13 日（水）午後 6 時 45 分～  
正賞・副賞： 記念杯と賞金 1,000 万円（受賞者が所属する組織等に贈呈。なお、法令、寄附に関する MSD 株式会社のポリシー及び製薬業界の自主規制等の適用により、副賞（賞金）を贈呈できない場合があります）

「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」は一般社団法人日本病院会、公益社団法人地域医療振興協会及び MSD 株式会社（Merck & Co., Inc., Kenilworth, N.J., U.S.A.の日本人）の共催として実施します。また、公益社団法人日本医師会、日本医学会及び公益社団法人全日本病院協会の後援を受けております。昨年（第 3 回）は、文部科学省、厚生労働省及び経済産業省より後援をいただきました。

以上

一般社団法人日本病院会  
会長  
相澤孝夫

公益社団法人地域医療振興協会  
会長  
高久史磨

MSD 株式会社  
代表取締役社長  
ヤニー・ウェストハイゼン

## 第4回

医療分野における革新的な功績を顕彰する

# 「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」

### <共催>

一般社団法人日本病院会  
公益社団法人地域医療振興協会  
MSD 株式会社

### <後援>

公益社団法人日本医師会  
日本医学会  
公益社団法人全日本病院協会

## 「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」について

---

「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」は医療分野におけるイノベーターを顕彰することを目的として2014年に創設された賞です。

本賞は、日本の健康・医療政策の推進及び健康寿命の延長に多大な貢献が期待される業績を上げた個人を対象とし、臨床研究、基礎研究及びトランスレーショナルリサーチ等における革新的な研究成果を顕彰します。選考にあたっては、当該研究がもたらす成果により人々の健康が大幅に増進することができるかどうかという点に着目し、医療にまつわる諸問題の新しい解決法の発見、積年の課題に対する革新的な取り組みの具現化、医療現場における業務の飛躍的な進歩を可能にした取り組み、医療政策の実現に向けた革新的な活動等を含めた幅広い観点から検討を行います。

本賞はまた、その選考過程を通じて、日本の科学技術力が世界中の患者さんを救う目的に活用できることを改めて確認し発信していくことも意図しています。

顕彰は、全国から寄せられた候補者の中から、独立した審査委員会による厳正なる審査により選考されます。本賞の審査基準は、例示すると以下の通りです。

- 新しい治療に道を開く等、人々の健康に多大な恩恵をもたらす、科学的に極めて重要な研究結果を見出したこと
- メディカルサイエンスの研究開発において継続的に卓越した業績を築いていること
- AI等新たな技術の活用等、新たな診療のあり方、医療サービス等の開発の礎となる発見、若しくは医学の飛躍的な進展につながる研究、教育又はその実現につながる業績を上げたこと
- 公衆衛生の向上につながる予防・診断・治療分野での画期的な解決法を見出したこと
- 介護・福祉分野等において、新しい考え方や革新的な形態で諸活動を行い、その成果を上げていること

広い意味で医療に関係する限りにおいて、その活動分野に特段の制限はありません。臨床及び基礎医学、トランスレーショナルリサーチ、予防医学、看護学、介護学分野等の研究者、医師、看護師、介護士、ヘルスケア産業従事者等、職種にかかわらず、その卓越した知識や活動が医療科学の進展を促し、人々の健康に大きな恩恵をもたらす成果を上げた個人が対象となります。

なお、候補者の推薦にあたり、推薦者以外の第三者による推薦状（様式不問）を添付していただくことができます。推薦状には、受賞者に相応しい功績であることを示す当該第三者による評価及びその理由（論文、学会発表、表彰等）を具体的に分かりやすく記載して下さい。

## 募集要項

【応募形式】 他者による推薦

【応募締切】 2017年9月15日（金）必着

【応募方法】 E-mail：info@innovator-of-the-year.com

FAX：03-5404-3814

郵便：「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」事務局宛

〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-8-6-205 JL 気付

※推薦用紙はウェブサイト [www.innovator-of-the-year.com](http://www.innovator-of-the-year.com) から

ダウンロードしていただくか、事務局までお問合せ下さい。

※電子データ（E-mail）による応募が推奨されます。

## 選考結果発表

10月中旬に推薦者及び受賞者に通知します。

## 第4回授賞式

2017年12月13日（水）午後6時45分～

於）ザ・キャピトルホテル東急「鳳凰」

## 正賞・副賞

記念杯を受賞者本人に授与します。

また、副賞として賞金1,000万円を、受賞者が所属する組織等に贈呈します。

（受賞者個人に対して直接副賞を授与することはいたしません。なお、副賞の贈呈にあたっては、法令、寄附に関するMSD株式会社のポリシー及び製薬業界の自主規制等が適用されるため、副賞が贈呈できない場合があります。）

## 第1回受賞者

間野 博行 東京大学大学院医学系研究科 細胞情報学分野 教授

【推薦者：中釜 斉 国立がん研究センター研究所 所長】

## 第2回受賞者

武藤 真祐 医療法人社団鉄祐会 理事長

【推薦者：逢沢 一郎 衆議院議員】

【推薦者：黒川 清 政策研究大学院大学 客員教授】

【推薦者：辻 哲夫 東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授】

## 第3回受賞者

藤堂 具紀 東京大学医科学研究所・先端医療研究センター・先端がん治療分野 教授

【推薦者：宮園 浩平 東京大学大学院 医学系研究科長・医学部長】

（※所属・役職は、受賞当時の名称を記載）

## 審査委員 (五十音順、敬称略)

猪口 邦子	参議院議員、上智大学名誉教授
岡野 栄之	慶應義塾大学医学部生理学教室教授
木下 玲子	立命館アジア太平洋大学客員教授
清水 潔	いわき法律事務所弁護士、元文部科学事務次官
永井 良三	自治医科大学学長
間野 博行	東京大学大学院医学系研究科細胞情報学分野教授 国立がん研究センター研究所所長
水田 邦雄	全国土木建築国民健康保険組合理事長、元厚生労働事務次官
武藤 徹一郎	公益財団法人がん研究会有明病院名誉院長・メディカルディレクター

## 諮問委員 (五十音順、敬称略)

逢沢 一郎	衆議院議員
秋葉 賢也	衆議院議員
阿部 俊子	衆議院議員
池上 直己	聖路加国際大学特任教授
石毛 博行	独立行政法人日本貿易振興機構理事長
井戸 清人	株式会社国際経済研究所副理事長
江利川 毅	公益財団法人医療科学研究所理事長、公立大学法人埼玉県立大学理事長 元人事院総裁、元厚生労働事務次官、元内閣府事務次官
小川 勝也	参議院議員
折茂 彰	順天堂大学医学部病理・腫瘍学准教授、順天堂大学医学部同窓会理事
北島 信一	国家公安委員会委員、元ジュネーブ国際機関日本政府代表部大使
木村 義雄	参議院議員
窪野 鎮治	カーディフ生命特別顧問
黒岩 祐治	神奈川県知事
黒木 登志夫	独立行政法人日本学術振興会学術システム研究センター顧問
小宮山 洋子	元厚生労働大臣、ジャーナリスト
齋藤 泰雄	日本オリンピック委員会副会長、元駐露・駐仏大使
武久 洋三	一般社団法人日本慢性期医療協会会長
谷 修一	国際医療福祉大学名誉学長
土屋 了介	地方独立行政法人神奈川県立病院機構理事長
堂道 秀明	前独立行政法人国際協力機構副理事長
中林 正雄	母子愛育会総合母子保健センター所長
林 貞行	元駐英大使、元外務事務次官
福井 次矢	聖路加国際大学学長、聖路加国際病院院長
宮田 満	日経 BP 社特命編集委員

※審査委員、諮問委員の肩書は2017年8月時点での参考情報として記載されているものであり、所属先の代表として「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」の審査委員、諮問委員をつとめるものではありません。

## 「イノベーター・オブ・ザ・イヤー」事務局

〒152-0023 東京都目黒区八雲 2-8-6-205 jl 気付

電話：03-5404-3813 FAX：03-5404-3814

## イノベーター・オブ・ザ・イヤー 受賞者

### 第1回 受賞者

**間野 博行** 東京大学大学院医学系研究科 細胞情報学分野 教授

「各がん種における本質的な発がん原因分子」を同定し、その機能を抑制することが、極めて有効ながん分子標的治療薬開発に繋がるとの仮説を立て、がん臨床検体から直接発がん原因分子を探索する技術開発を行った。文部科学省の国家的がんプロジェクトのリーダーとして日本のがん研究を牽引するなど、がん研究の第一人者として多大な貢献を果たした。

### 第2回 受賞者

**武藤 真祐** 医療法人社団鉄祐会 理事長

超高齢社会が抱える問題に正面から向き合い、在宅医療・介護の分野で挑戦を続け、在宅医療を中心とした診療所を開設した。在宅医療に ICT を導入し、安全で質が高く、正確で効率的なシステムを構築するなど、在宅医療・介護のチームケアの仕組みはモデルケースとして評価され、アジア諸国をはじめ海外でも採用されている。

### 第3回 受賞者

**藤堂 具紀** 東京大学医科学研究所・先端医療研究センター・先端がん治療分野 教授

がん研究の分野において、ウイルス療法開発の世界的パイオニアであり、がん細胞に特異的な抗腫瘍免疫が惹起されることを見いだした。がんの局所治療が、免疫を介して全身に作用し、遠隔のがんにも治療効果をもたらすことは、これまでの放射線治療や化学療法の常識を覆す治療メカニズムとして注目され、現在ではウイルス療法における常識となっている。

(※所属・役職は、受賞当時の名称を記載)